

# 相談支援つうしん

<第77号>2021年12月23日  
県立湘南養護学校 支援連携部  
相談支援係 ~教師編~

## ～校内のPECS実践の振り返り、そして、今後へ！～

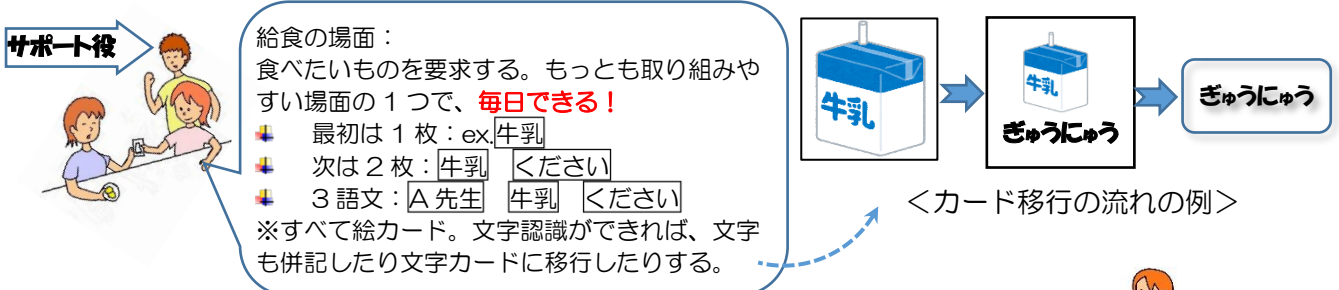
本校の特色の1つとして、PECSを用いたコミュニケーション支援が盛んであることが挙げられます。しかし、このコロナ禍でカードのやり取りは、ソーシャルディスタンスの観点からかなりの制限を強いられてきました。特に給食の時間に取り組みなくなったのは、貴重なコミュニケーションの機会が失われ、子どもにとっても教員にとってもスキルを磨く機会が1つ奪われてしまいました。

そんなある日、ある先生から声をかけられました。

「この間、放課後等テイクサービス事業所の方が、本校でのカードでのやり取りの様子を知って、「学校ではこんなに生き生きと自分から話していてびっくりしました！」と言っていました。やり方を教えてほしいと言われましたよ。」とのことでした。その先生自身も、**高等部を卒業したらPECSは使わなくなるから、といった理由で取り組まないのではなく、卒業後の進路先でもやっていただけるように引き継いでいきたい**とおっしゃっていました。実際に、卒業後も活用してくださる福祉施設や放課後等事業所も増えてきている印象を受けます。

そこで、ここで今一度、本校でのPECSを活用している場面をいくつか共有したいと思います。これらの場面以外でも活用している場面があったら、ぜひお知らせください。

## ✚ まずは1枚のカードを渡してほしいものを受け取ることから！



PECSは、子どもが自分の欲求を満たしたいという思いを叶えることから指導を開始します。大人が「静かにしてください」など、子どもにしてほしいことを伝える方法ではありません。また、「〇〇が欲しいときには、このカードを渡すんだよ。」という教え方は誤りです。まずは子どもが手を伸ばしたくなるようなものをたくさん見つけて(好子のアセスメント)、子どもがそれらをほしがったときにカードを手を持たせて、大人に渡して交換します。

また、欲しいものを手に入れるという発信だけでなく、子どもから子どもへ要求する(役目を依頼する)という発展的な取り組みをしている学年もあります。ここまでのスキルを身につけるまでにはとてもたくさんの積み重ねが必要だったと思います。初めて見たときには本当に驚き、**すごい！**と



思いました。子ども同士のやり取りが希薄な場合でも、PECS というツールを活用することで、やり取りの機会を増やしていくというアイデアは、正に秀逸です。

### ✦ 報告は要求スキルを十分に身につけてから

報告するという行動は、子どもは直接的な利益が得られないので、**要求する経験を積んだ後に取り組むことが必要です**。場合によっては、報告後にありがとう、といった褒め言葉や休憩時間といっ



報告の場面：  
「おわりました」と伝えられるようになると、学習の様子をずっとそばで見ている必要がなくなります。自立課題や作業学習など、**毎日できる!**カードだけでなく、タブレット端末などを活用して伝える方法もあります。

た本人にとってご褒美が与えられることが必要なこともあるでしょう。注意したいのは、学び始めの頃に「終わりました」といった報告を受けて、「**じゃあ、この課題をやっていますか?**」と追加の課題を与えてしまうことです。そうすると、**報告＝追加の学習課題となってしまう**報告が嫌なことになりかねません。報告スキルの学習を始めたばかりの頃は、休憩時間や感謝の言葉などのご褒美を多く提供するようにして、徐々にご褒美を減らしていくといった工夫も頭においておきます。

### ✦ 伝える・伝わることが大事

中学部の作業学習を見学していた時のことですが、ある生徒が音声で「終わりました」と声を出しました。しかし、少し離れたところにいた先生はあえて反応しません。すると、生徒は先生の所まで行き、顔を見てもう一度言いました。そこで初めて先生は「分かりました。」と応じていました。音声で発信ができるからといって、相手に伝わっているとは言えません。PECS は物理的にカードを相手に渡すという行為自体が、相手の注意を引くことと連動しているのですが、音声はそういうわけではありません。出した声が届かなければいけません。また、たとえ音声で発信できたとしても、不明瞭で内容が伝わりにくいようであれば、やはり PECS などのツールを活用するとよいです。日頃の付き合いで分かるからと言って安易に察して「OOしてほしいのかな?」と応じてしまうと、子どもはそれでいいと誤解して適切に発信する機会を逸してしまい、通じる相手の幅が広がらなくなります。

### ✦ 今ちょっと手が離せません!

子どもの声に耳を傾けたいけれど、今はちょっと、というときってありますよね。そういう状況を想定して、あえて手が離せないような場面を設定して、子どもがその状況を見て判断して発信できる力を養っている実践があります。状況判断というスキルはかなり高度なものです。小学部から PECS で発信スキルを伸ばしたことで、音声だけでも表出する場面が今後も増えていってくれることを期待したいです。

タロウ先生が忙しいので、ハナコ先生、片づけてもいいですか?



許可を得て片づける場面。給食など**毎日できる!**この発展的実践を初めて見たときも本当に驚きました。

### 最後に

校内にはさまざまな発展的な実践がありますが、共通するのは基礎をよく理解しているからこそその実践なのではないかと思えます。**基礎が分かっているから応用が利く**、このことを本当に実感できる経験をさせていただき、先生方に感謝しています。